

看護師特定行為指定研修機関の現状と問題点：医師の立場から

谷崎 義生¹⁾、高橋 陽子²⁾、美原 盤³⁾

公益財団法人脳血管研究所附属美原記念病院

救急部・脳神経外科¹⁾、看護部²⁾、神経内科³⁾

【背景と目的】美原記念病院は「脳・神経疾患の急性期から慢性期・介護まで病期横断的に臨床研究を行う」「併せて医療・介護に関わる人材育成の活動も行う」などをミッションに在宅医療にも取り組んできた。演者は脳卒中救急チーム人材養成のため、救急隊を対象に PSLS (Prehospital Stroke Life Support) コースを平成 20 年 8 月から、研修医・非脳卒中専門医、看護師など脳卒中初期診療に携わる病院職員を対象に ISLS (Immediate Stroke Life Support) コースを平成 21 年 5 月から継続開催し、平成 25 年 5 月群馬大学での開催時より高忠実度シミュレーターを導入した。特定行為は、医師が年単位で学習する事項を月単位に圧縮して研修する。ミニ医師養成ではなく、チーム医療を実践するための知識・技術・態度を踏まえた医療の考え方を身につけた人材養成が必要である。前述の実績と基本方針を踏まえ、伊勢崎地区の医師密度の低い在宅医療の質向上、当院看護部の質向上を目的に、平成 28 年 4 月 8 日特定行為 21 区分のうち「気管カニューレの交換」1 区分に特化した研修を行う特定行為研修指定機関として指定され、10 月より研修を開始している。【対象と方法】伊勢崎地区の看護師を対象に研修生募集したが、院外からの応募がなく、当院職員 3 名を採用した。研修は当院施設内で実施。フィジカルアセスメント」などの知識および実習は S-QUE の e-learning システムを軸に高忠実度シミュレーターも併用し医師が研修を主導している。【結論】当院では初めての経験であり、研修生の熱意に励まされながら、試行錯誤を積み重ねているのが現状である。発表では、取り組みの実際と今後の課題について報告する。